

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和3年9月6日（月）～令和3年9月12日（日）〔令和3年第36週〕の感染症発生状況

第36週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 流行性角結膜炎 3) 突発性発しんでした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は1.86人と前週（2.05人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は0.44人と前週（0.33人）から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.43人と前週（0.22人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。



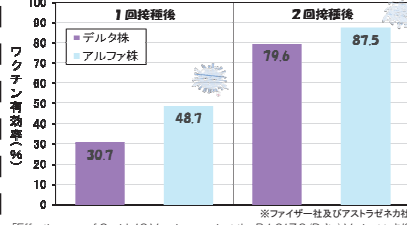
新型コロナウイルス感染症～ワクチンの有効性・副反応～

我が国では、令和3年2月中旬から新型コロナワクチンの接種が開始されました。新型コロナワクチンは、2回目の接種完了から2週間程度で十分な免疫が得られるといわれており、国内で使用されているワクチンを用いた調査では、現在流行中のデルタ株に対しても2回接種後のワクチン有効率は79.6%と、感染リスクを大きく減らすことが報告されています。

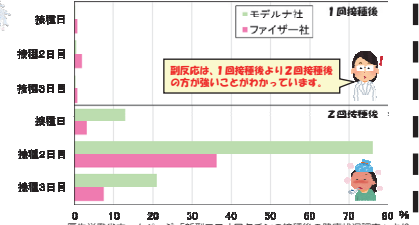
しかし、接種後に、倦怠感や接種部位の痛み、頭痛、発熱などの副反応がみられることが多く、特に2回目接種後はより反応が強いことがわかっています。これらの症状が現れるのは接種翌日が最も多く、3日目以降は軽減することがほとんどです。

ワクチンの特性を正しく知った上で、接種を検討しましょう。

新型コロナウイルスのアルファ株及びデルタ株に対する新型コロナワクチン*の有効性



新型コロナワクチン1回及び2回接種後の副反応(37.5℃以上の発熱)発現状況



厚生労働省ホームページ「新型コロナウイルスの接種後の健康状況調査」より
 *ファイザー社及びアストラゼネカ社
 『Effectiveness of Covid-19 Vaccines against the B.1.617.2 (Delta Variant)』より
 川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター
 (問合せ先) 044-276-8250
 (福祉事務所・保健所支所)
 令和3年9月14日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和3年9月13日（月）～令和3年9月19日（日）〔令和3年第37週〕の感染症発生状況

第37週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 突発性発しん 3) 流行性角結膜炎でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.32人と前週（1.86人）から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.65人と前週（0.43人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は0.56人と前週（0.44人）から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。



結核予防週間「結核は、過去の病じゃありません。」

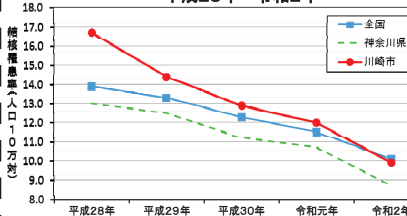
令和3年9月24日から9月30日までは結核予防週間です。

川崎市における令和2年の結核罹患率は9.9（人口10万対）と、全国（10.1）よりは低いものの、神奈川県（8.7）よりは高い状況です。年齢階級別では、60歳以上の割合が増加し、全体の6割を超えています。

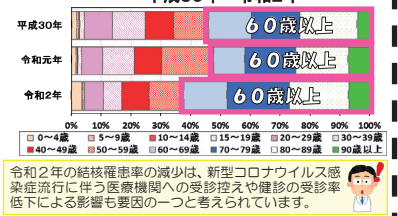
結核は一般的に、患者の咳やくしゃみの際にしびぎと共に排出され、空気中に飛び散った結核菌を直接吸い込むことによって感染します。また、過去に感染したことのある方が、基礎疾患や加齢などで免疫力が低下すると、体内に冬眠状態で潜んでいた結核菌が再び増殖し、発症することもあります。

発症初期は発熱や咳など風邪と似た症状を呈するため、気付かないうちに進行してしまうことがあります。健診は必ず受け、痰のからむ咳、微熱、身体のだるさなどが2週間以上続く場合には早めに医療機関を受診しましょう。

全国、神奈川県、川崎市における結核罹患率の年次推移



川崎市における結核年齢階級別発生状況



川崎市における結核罹患率の減少は、新型コロナウイルス感染症流行に伴う医療機関への受診控えや健診の受診率低下による影響も要因の一つと考えられています。
 川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター
 (問合せ先) 044-276-8250
 (福祉事務所・保健所支所)
 令和3年9月22日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和3年9月20日(月)～令和3年9月26日(日)〔令和3年第38週〕の感染症発生状況

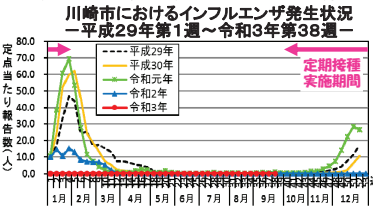
第38週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 流行性角結膜炎 3) 突発性発しんでした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は1.95人と前週(2.32人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
 流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は0.38人と前週(0.56人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
 突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.27人と前週(0.65人)から減少し、例年より低いレベルで推移しています。



高齢者を対象としたインフルエンザの定期接種が始まります！

川崎市では、令和3年10月1日から高齢者を対象としたインフルエンザの定期接種(一部公費負担)が始まります。インフルエンザワクチンは、感染や発症を完全に防ぐことはできないものの、重症化や合併症の発生を予防する効果があるため、流行前に接種することが重要です。

また、ワクチン接種だけでなく、こまめな手洗いや正しいマスクの着用などの基本的な感染対策は、引き続き徹底しましょう。



高齢者を対象とした定期的インフルエンザ予防接種

◆対象となる方(次の3つの条件を満たしていること)

- ①住所 川崎市にお住まいの方
- ②年齢 I 接種日に65歳以上の方
II 接種日に60歳～65歳未満の方
・心臓、腎臓、呼吸器の機能障害(障害1級程度)のある方
・ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害(障害1級程度)のある方
- ③その他 接種を受けようとするご本人が接種を希望していること

接種の際は、住所及び年齢を正確できるもの(健康保険証等)をお持ちください。

◆実施期間と回数

令和3年10月1日～令和4年1月31日の間に1回

◆接種を受けられる場所

川崎市予防接種個別協力医療機関
市が指定した市内約600か所の医療機関です。

◆自己負担金(接種を受けた医療機関にお支払いください。)
2,300円 *詳細は川崎市ホームページをご覧ください。

インフルエンザについて

【症状】
突然の高熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛・関節痛など症状だけでは他の感染症との鑑別は困難
⇒症状がみられた際は、医療機関を受診しましょう！

【ワクチン】
今シーズンのワクチンには、A型2種類(H1N1、H3N2)、B型2種類(山形系統、ビクトリア系統)の計4種類の製造株が含まれています。

川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所) (問合せ先) 044-276-8250 令和3年9月28日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和3年9月27日(月)～令和3年10月3日(日)〔令和3年第39週〕の感染症発生状況

第39週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 突発性発しん 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.05人と前週(1.95人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
 突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.51人と前週(0.27人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.43人と前週(0.22人)から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。

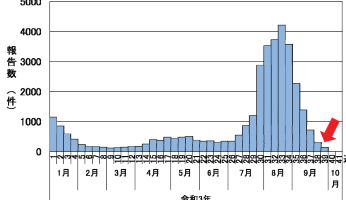


新型コロナウイルス感染症～日常生活の回復に向けて～

川崎市における令和3年第39週の新型コロナウイルス感染症の報告数は133件と、8月下旬から急激に減少し、9月30日をもって全ての都道府県で、緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置は解除されました。

緊急事態宣言等は解除されましたが、外出自粛や飲食店の営業時間短縮等の制限解除は流行状況を見極めつつ段階的にを行うのが望ましいとされています。大きな再流行を防ぐために、混雑した場所でマスクを外す、手を洗わずに目や口などに触れる、換気の悪い密閉空間に大人数で集まる等、感染リスクが高いとされる行動は避けるようにしてください。

川崎市における新型コロナウイルス感染症発生状況 令和3年第1週～第39週



状況による感染リスクの比較

<p>マスクの不適切な使用は感染リスクが高い</p> <p>不織布 ウレタン</p> <p>低 感染リスク 高</p>	<p>換気の悪い密閉空間は感染リスクが高い</p> <p>低 感染リスク 高</p>
<p>手を洗わずに、目や口などに触れるのは感染リスクが高い</p> <p>低 感染リスク 高</p>	<p>感染対策がなされていない場での会食は感染リスクが高い</p> <p>低 感染リスク 高</p>

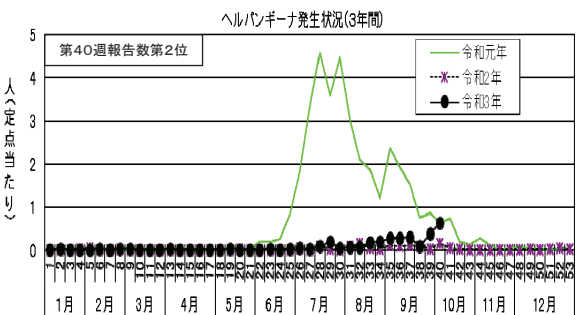
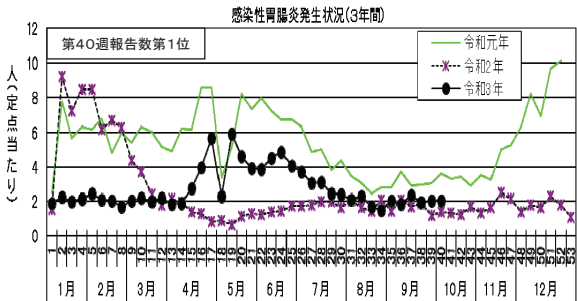
川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所) (問合せ先) 044-276-8250 令和3年10月5日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和3年10月4日(月)～令和3年10月10日(日)〔令和3年第40週〕の感染症発生状況

第40週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) ヘルパンギーナ 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.05人と前週(2.05人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は0.62人と前週(0.38人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.51人と前週(0.43人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。



新型コロナワクチンの接種予約はお早めに！

川崎市では、令和3年11月以降は新型コロナワクチンの接種体制を縮小し、各区を含めた全ての集団接種会場において、現在受付中の予約分をもって接種を終了とします。接種を希望される方は、お早めに予約をお取りください。なお、大規模接種会場及び南部接種会場においては、予約なしでの接種が可能となりますが、接種日時が限定されていますので、御来場の際は御注意ください。接種を希望される方は、接種券と本人確認書類を忘れずにお持ちの上、会場にお越しください。

接種予約ありの場合の接種会場ごとの違い
※現在の予約受付分をもって、新規受付終了

接種予約なしの場合の会場ごとの違い
※現時点での実施予定

接種会場	大規模接種会場 (NEC 玉川ルネッサンスシティホール)	南部接種会場 (市役所第4庁舎)	各区の 集団接種会場
対象	満12歳以上の市民の方		
予約受付日時	予約受付中	予約受付中	予約受付中
1回目接種の実施日	令和3年 10月12日(火) ～10月31日(日) 火～日曜日、週6日実施	令和3年 10月13日(水) ～10月31日(日) 水～日曜日、週6日実施	令和3年 10月26日(火) ～11月7日(日)
ワクチン製造会社	モルリス社	ファイザー社	
接種間隔	4週間	3週間	
2回目の接種予約は、1回目の接種時に接種会場でお取りします。			

接種会場	大規模接種会場 (NEC 玉川ルネッサンスシティホール)	南部接種会場 (市役所第4庁舎)
対象	満12歳以上の市民の方 すでに他の会場で1回目の接種を受けた方、他の会場の予約が済みの方は、接種券をお持ちください。	
予約なしでの1回目接種の実施日	令和3年 10月12日(火)～ 10月31日(日) 火～日曜日、週6日実施	令和3年 10月13日(水)～ 10月31日(日) 水～日曜日、週6日実施
予約なしでの接種受付時間	12時30分～ 18時30分	13時30分～ 18時30分
ワクチン製造会社	モルリス社	ファイザー社
接種間隔	4週間	3週間
2回目の接種予約は、1回目の接種時に接種会場でお取りします。		

予約方法：電話又は予約サイトにて受付
 ・新型コロナウイルスワクチン予約コールセンター：0120-654-478
 ・新型コロナウイルスワクチン接種予約サイト：https://vovoyaku.jp/141305-kawasaki
 ※接種は予約されている方が優先となりますので、予約なしの方はお待ちいただく場合があります。すでに日曜等が決まっている方は、予約を取ってからお越しください。

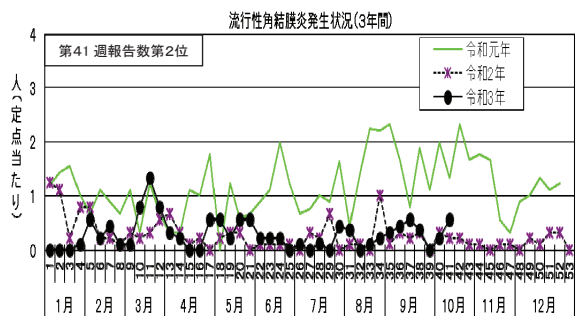
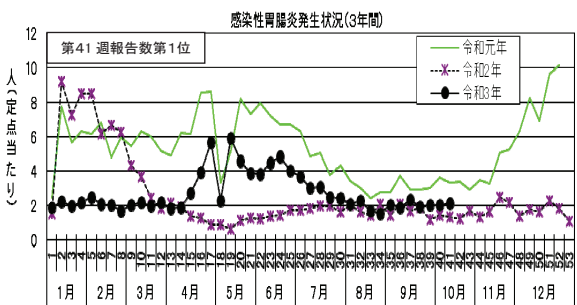
川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター (福祉事務所・保健所支所) 令和3年10月12日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和3年10月11日(月)～令和3年10月17日(日)〔令和3年第41週〕の感染症発生状況

第41週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 流行性角結膜炎 3) 手足口病・ヘルパンギーナでした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.14人と前週(2.05人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は0.56人と前週(0.22人)から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。手足口病の定点当たり患者報告数は0.46人と前週(0.46人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は0.46人と前週(0.62人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

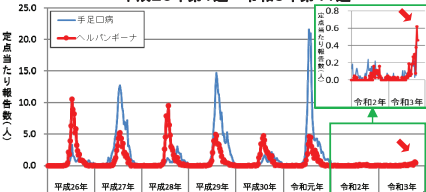


季節外れの夏かせ～手足口病・ヘルパンギーナ～

手足口病やヘルパンギーナは、エンテロウイルス属のコクサッキーウイルスなどを原因とする感染症で、通常、乳幼児を中心に夏季に隔年で流行します。新型コロナウイルス感染症の流行が始まった令和2年は、ほとんど報告がありませんでしたが、今年はヘルパンギーナの患者報告数が、第40週(令和3年10月4日～10日)、第41週(10月11日～17日)にそれぞれ定点当たり0.62人、0.46人と秋口からやや増加しています。

いずれの疾患も、おおむね予後は良好ですが、まれに重症化することもありますので、念入りに手洗いをこまめに、トイレやおむつ交換の後は排泄物を適切に処理する、タオルの共用は避けるなどの予防対策を徹底しましょう。

川崎市における手足口病とヘルパンギーナの発生状況
～平成26年第1週～令和3年第41週～



手足口病とは？
 感染経路：飛沫感染、接触感染、糞口感染
 潜伏期間：3～5日
 典型的な症状：軽度の発熱、手のひらや足の裏などに発赤を伴った小さな水疱が多発、舌や口の中の粘膜にも口内炎が多発
 ※基本的な予後は良好ですが、まれに重症化して髄膜炎や脳炎などを引き起こすことがあります。

ヘルパンギーナとは？
 感染経路：飛沫感染、接触感染、糞口感染
 潜伏期間：2～4日
 典型的な症状：突然の発熱(38～40℃程度)で発症し、咽頭痛を伴い、のどの奥に小水疱と小さな白い潰瘍が多発
 ※発熱は1～3日程度で、ほとんどは予後良好ですが、まれに髄膜炎、心筋炎等を合併することもあります。

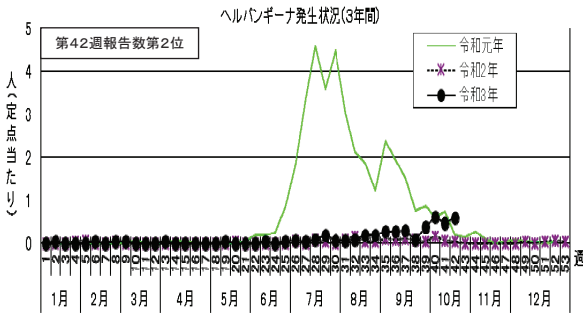
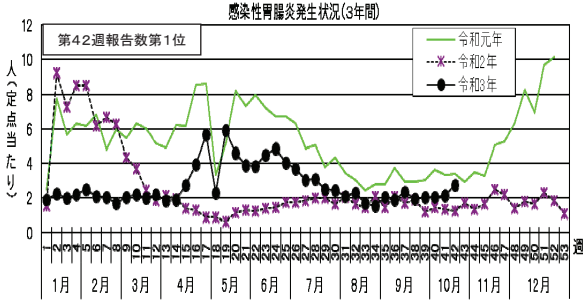
川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター (福祉事務所・保健所支所) 令和3年10月19日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和3年10月18日(月)～令和3年10月24日(日)〔令和3年第42週〕の感染症発生状況

第42週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) ヘルパンギーナ 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎・手足口病でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.73人と前週(2.14人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は0.59人と前週(0.46人)から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.49人と前週(0.32人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。手足口病の定点当たり患者報告数は0.49人と前週(0.46人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。



風しん抗体検査～妊娠するまえに、感染するまえに～

風しんは、風しんウイルスを原因とし、発熱、発疹、リンパ節腫脹を三主徴とする感染症です。成人が発症した場合、小児より重症化することがあり、まれに急性脳炎、血小板減少性紫斑病等の合併症を引き起こすこともあります。また、妊娠20週頃までの妊婦が感染すると、先天性心疾患、難聴、白内障などの障がいを持つ、先天性風しん症候群(CRS)の児が生まれる可能性が高くなり、大きな問題となっています。

川崎市では、風しんを予防しCRSの発生を防止するため、無料の風しん抗体検査の実施と、抗体価が十分でない方へのワクチン接種費用の一部助成を実施しています。風しんはワクチンを接種することで、95%以上の人が免疫を獲得できるといわれています。妊婦への感染を防ぎ、未来の子ども達を守るためにも、風しんにかからないようにしましょう。

令和3年度川崎市風しん対策事業

対象者: 本市の事業を利用したことがない川崎市民で、次のいずれかに当てはまる方

- ・妊娠を希望する女性
- ・妊娠を希望する女性のパートナー
- ・妊婦のパートナー
- ・昭和34年4月2日～平成元年4月1日の間に生まれた男性

実施期間: 令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

実施場所: 市内の協力医療機関 約440か所

Step 1 風しん抗体検査(無料)
Step 2 麻しん風しん混合ワクチン接種(3,200円)

*抗体価が十分でなかった方は、是非ワクチン接種を検討しましょう。

昭和37年4月2日～昭和54年4月1日の間に生まれた男性は、厚生労働省の追加的対象者となり、免疫を保有していない方は接種費用も無料となります。クーポン券を利用して、抗体検査及びワクチン接種(第5期定期接種)を受けましょう。

※詳しくは令和3年度川崎市風しん対策事業ホームページをご覧ください。

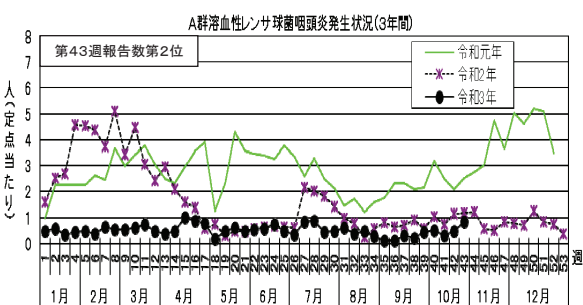
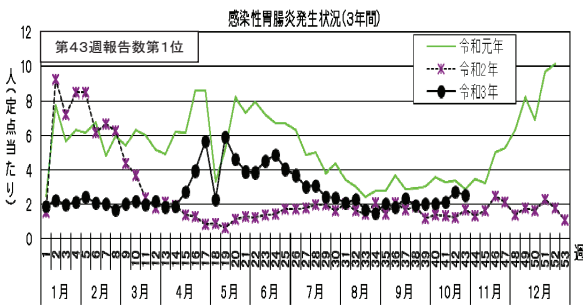
川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所) 令和3年10月26日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和3年10月25日(月)～令和3年10月31日(日)〔令和3年第43週〕の感染症発生状況

第43週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 突発性発しんでした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.54人と前週(2.73人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.84人と前週(0.49人)から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.51人と前週(0.24人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



今後気をつけたい感染症～麻しん(はしか)～

麻しんは、麻しんウイルスを原因とする急性の熱性発疹性疾患で、免疫のない人が感染すると、ほぼ100%発症するといわれています。

全国における麻しんの報告数は、令和元年に744件と過去10年間で最多となりましたが、令和2年以降は新型コロナウイルス感染症の流行により、海外との往来が制限されたことに伴い、大幅に報告数が減少しました。

麻しんは非常に感染力が強い感染症ですが、ワクチンで予防することができます。今後海外との交流が再開された際には、国内に持ち込まれる可能性があるため、定期予防接種の対象者は確実に接種を済ませておきましょう。

麻しんとは?

【感染経路】 空気感染、飛沫感染、接触感染

【潜伏期間】 ～18日間(最長21日間程度)

【主な症状】 発熱、発疹、咳、鼻汁、結膜充血など

【感染可能期間】

発症 1日前 発熱 発疹 発熱 3日後 治癒

感染力が特に強い

周囲への感染可能期間

全国における麻しん累積報告数
—平成29年第1週～令和3年第42週—

累積報告数(人)

●平成29年(188件)
●平成30年(279件)
●令和元年(744件)
●令和2年(12件)
●令和3年(4件)

麻しん・風しん(MR)定期予防接種の対象者

第1期:生後12月から生後24月に至るまでの間にある者
第2期:小学校入学前の年度1年間(4月1日～翌年3月31日)

※川崎市では、新型コロナウイルス感染症の発生に伴い定期予防接種を受けられなかった方は、申請することにより接種期間を延長できる場合があります。詳細は川崎市ホームページをご覧ください。

川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所) 令和3年11月2日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和3年11月1日(月)～令和3年11月7日(日)〔令和3年第44週〕の感染症発生状況

第44週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 手足口病 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎・ヘルパンギーナでした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.89人と前週(2.54人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。手足口病の定点当たり患者報告数は0.76人と前週(0.11人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.57人と前週(0.84人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は0.57人と前週(0.32人)から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



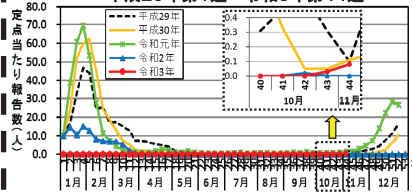
この冬、気を付けたい感染症～インフルエンザ～

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを原因とし、突然の高熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛・関節痛などの症状がみられる感染症です。

全国におけるインフルエンザの報告数は、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い令和2年以降大幅に減少し、川崎市においても昨シーズンはほとんど報告がありませんでした。今シーズンは令和3年第43週(10月25日～10月31日)に初めての報告(定点当たり0.03人)があり、第44週(11月1日～11月7日)は定点当たり0.08人となりました。

インフルエンザの予防には、こまめな手洗いや正しいマスクの着用が重要ですが、日頃から体調を整え、ワクチンの接種も御検討ください。

川崎市におけるインフルエンザ発生状況
—平成29年第1週～令和3年第44週—



川崎市感染症情報発信システム(KIDS)のリアルタイムサーベイランスによると、10月25日から11月7日までにB型インフルエンザの報告が3件ありました。

新型コロナワクチンとの接種間隔に御注意ください！

新型コロナワクチンは、原則として他のワクチンとの同時接種はできません。また、他のワクチンとの接種間隔を前後13日間空ける必要があるため、インフルエンザワクチンの接種を予定されている方は御注意ください。

●新型コロナワクチンと他のワクチンの接種間隔について



【例】11月10日に新型コロナワクチンを接種した場合、11月24日以降にインフルエンザワクチンを接種することができます。

川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所) 問合せ先) 044-276-8250 令和3年11月9日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和3年11月8日(月)～令和3年11月14日(日)〔令和3年第45週〕の感染症発生状況

第45週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 手足口病 3) ヘルパンギーナでした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.81人と前週(2.89人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。手足口病の定点当たり患者報告数は0.92人と前週(0.76人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は0.68人と前週(0.57人)から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。

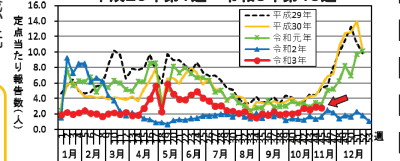


感染性胃腸炎にも御注意を！！

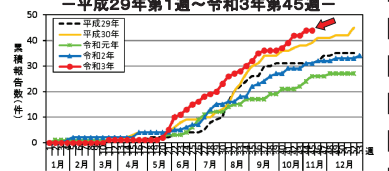
川崎市における感染性胃腸炎の報告数は、新型コロナウイルス感染症流行の影響で、令和2年は激減しましたが、令和3年は4月以降少しずつ増加し、例年並みに戻りつつあります。また、例年夏季に流行し食中毒の原因となる腸管出血性大腸菌感染症は、令和2年は報告数の減少はみられず、令和3年は5月下旬以降報告数が急増し、夏以降も報告が続いています。

これから冬にかけては、例年ノロウイルス感染症の流行も多くみられます。消毒用アルコールが効きにくい病原体もありますので、感染性胃腸炎など経口感染する感染症に対しては、こまめな手洗いを徹底しましょう。

川崎市における感染性胃腸炎発生状況
—平成29年第1週～令和3年第45週—



川崎市における腸管出血性大腸菌感染症累積報告数
—平成29年第1週～令和3年第45週—



ノロウイルス感染予防のポイント

ノロウイルスには、エタノールや逆性石けんなどの消毒薬はあまり効果がありません。次のような方法で防ぎましょう。

- ✓ 二枚貝や肉などは中心部まで十分加熱する。(85℃～90℃で90秒以上)
- ✓ 調理器具は使用後、洗って熱湯消毒する。
- ✓ 嘔吐物や便は、次亜塩素酸ナトリウムを利用し、適切に処理する。

経口感染対策の基本は手洗いです。食事や調理の前、トイレの後などは、必ず手を洗いましょう！

川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所) 問合せ先) 044-276-8250 令和3年11月16日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

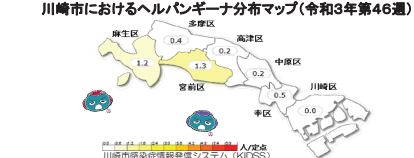
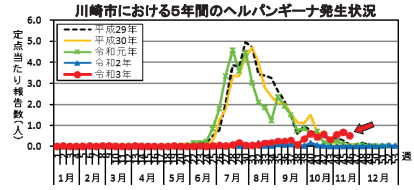
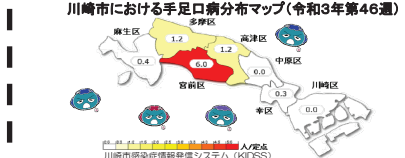
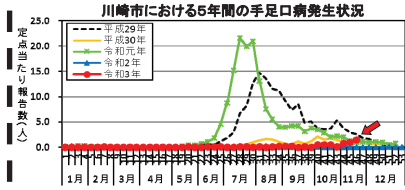
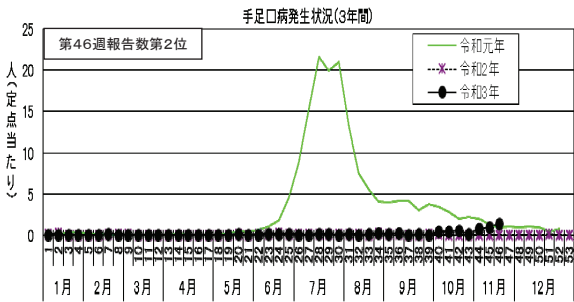
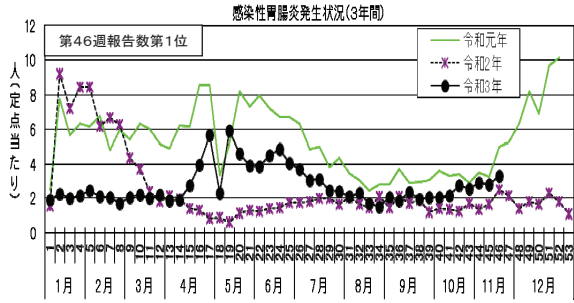
令和3年11月15日(月)～令和3年11月21日(日)〔令和3年第46週〕の感染症発生状況

第46週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 手足口病 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.32人と前週(2.81人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 手足口病の定点当たり患者報告数は1.41人と前週(0.92人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.62人と前週(0.46人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。



地域的な流行がみられます！～手足口病・ヘルパンギーナ～

手足口病及びヘルパンギーナは、通常夏季に流行がみられる疾患ですが、今年は9月下旬以降、報告数が増加しています。川崎市における令和3年第46週(11月15日～11月21日)の定点当たり患者報告数は、手足口病が1.41人、ヘルパンギーナが0.54人で、特に宮前区においては、手足口病の報告数が流行発生警報基準値(定点当たり5.00人)を超えています。
 いずれもエンテロウイルス属のウイルスを原因とする感染症ですが、ウイルスの種類によっては重症化することもありますので、こまめな手洗いやタオルの共用は避けるなどの予防対策を徹底しましょう。



川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター (福祉事務所・保健所支所) 令和3年11月24日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和3年11月22日(月)～令和3年11月28日(日)〔令和3年第47週〕の感染症発生状況

第47週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 手足口病 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.95人と前週(3.32人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。
 手足口病の定点当たり患者報告数は1.00人と前週(1.41人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.57人と前週(0.62人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。



新型コロナワクチンの3回目接種が開始されます！

我が国では、新型コロナワクチンの2回目接種を完了した日から、原則8か月以上経過した18歳以上の方を対象に、ワクチンの3回目接種が始まります。令和3年12月1日からの3回目接種に向けて、川崎市においても、4月までに2回目接種を受けた方に対して、11月19日に接種券を発送しました。今後も、2回目接種後8か月を経過する時期に合わせて接種券を発送する予定です。

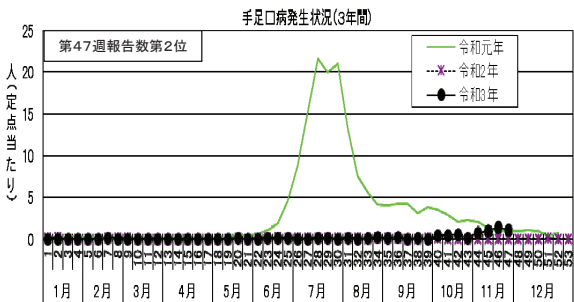
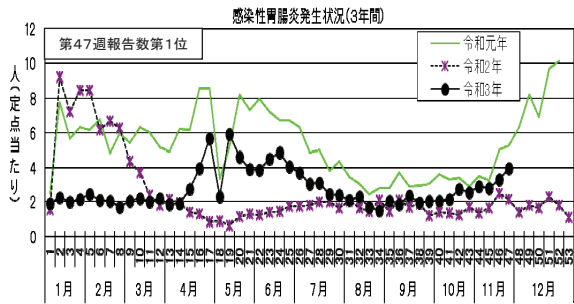
新型コロナワクチンの感染予防効果や60歳以上の方に対する重症化予防効果は、接種後経時的に低下するものの、追加接種を行うことで大きく改善すると報告されています。重症化リスクの高い方(高齢者や基礎疾患を有する方など)やこれらの方との接触が多い方などは、追加接種をおすすめします。

川崎市における新型コロナワクチンの接種券の発送スケジュール

2回目接種を受けた時期	追加接種が可能な時期	接種券の発送予定時期
令和3年4月まで	令和3年12月以降	令和3年11月19日(発送済み)
令和3年5月	令和4年1月以降	令和3年12月
令和3年6月	令和4年2月以降	令和4年1月
令和3年7月	令和4年3月以降	令和4年2月
令和3年8月	令和4年4月以降	令和4年3月

川崎市における新型コロナワクチンの3回目接種について

- 実施期間 令和3年12月1日～令和4年9月30日
- 対象者 新型コロナワクチンを2回接種済みの方で、接種日に18歳以上の方 ※原則として、接種日に川崎市に住民登録のある方が対象
- 接種間隔・回数 2回目接種から原則8か月以上の間隔において、1回の追加接種
- 使用するワクチン ファイザー社製の新型コロナワクチン ※今後、薬事承認等の状況により、使用するワクチンが追加される可能性があります。



川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター (福祉事務所・保健所支所) 令和3年11月30日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和3年11月29日(月)～令和3年12月5日(日)【令和3年第48週】の感染症発生状況

第48週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 手足口病 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.92人と前週(3.95人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。
 手足口病の定点当たり患者報告数は1.05人と前週(1.00人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.76人と前週(0.57人)から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。



新型コロナウイルス感染症～変異株について～

新型コロナウイルスは、ウイルス表面のスパイクタンパク質と呼ばれる突起を使って、人の細胞内に侵入します。このスパイクタンパク質に様々な変異が起きると、変異の部位によっては感染性やワクチンの効果等が変化します。現在、アフリカ南部を中心に急速に拡大しているオミクロン株は、変異が非常に多く、その特徴などから、感染性が高くなっているのではないかとされています。未だ不明な点が多いものの、重症化を防ぐためには、十分な免疫をつけておくことが重要と考えられています。

リスクの高い方は適切な時期に追加接種を実施して、高い抗体価を維持しておきましょう。



オミクロン株とは？

- 令和3年11月に南アフリカ共和国で最初に検出
- 従来株よりもスパイクタンパク質の変異が多く、特に感染性やワクチン効果にかかわる部位に多い。
- 感染性が高くなる可能性
- ワクチンや抗体治療薬の効果が弱まる可能性
- 再感染を起こしやすくなる可能性
- 南アフリカ共和国を中心に、我が国を含め世界49カ国で報告されている。(令和3年12月7日現在)

川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所) 問合せ先 044-276-8250 令和3年12月7日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和3年12月6日(月)～令和3年12月12日(日)【令和3年第49週】の感染症発生状況

第49週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 手足口病 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.76人と前週(4.92人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。
 手足口病の定点当たり患者報告数は0.78人と前週(1.05人)から減少し、例年並みのレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.70人と前週(0.76人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。



ノロウイルス食中毒警戒情報が発令されました！

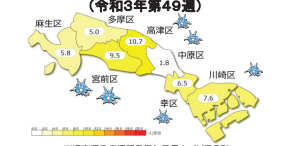
感染性胃腸炎は、例年秋から冬にかけて報告数が増加しますが、昨年は新型コロナウイルス感染症の流行の影響により激減しました。しかし今年は、川崎市においても、秋口から徐々に報告数が増加しており、神奈川県においては、令和3年12月6日にノロウイルス食中毒警戒情報が発令されました。

感染性胃腸炎は、主にノロウイルス、エンテロウイルス、ロタウイルスなどのウイルス感染により引き起こされます。特に冬季に流行することが多いノロウイルスは、エタノールや逆性石けんなどの消毒剤はあまり効果がないため、次亜塩素酸ナトリウムを使用し、嘔吐物や便は適切に処理するようにしましょう。

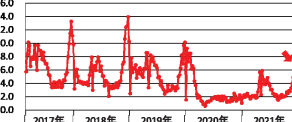
次亜塩素酸ナトリウムの希釈方法

対象物	濃度	希釈倍率	水3L	ペットボトル(約5mL)
食器、カーテンなどの消毒や拭き取り	12%	⇒ 600倍希釈 (水3Lに対して5mL)	1	60
	6%	⇒ 300倍希釈 (水3Lに対して10mL)	1	30
	1%	⇒ 50倍希釈 (水3Lに対して60mL)	1	6
嘔吐物等の廃棄 (廃棄物袋の中で浸す)	12%	⇒ 120倍希釈 (水3Lに対して25mL)	1	12
	6%	⇒ 60倍希釈 (水3Lに対して50mL)	1	6
	1%	⇒ 10倍希釈 (水3Lに対して300mL)	1	3

川崎市における感染性胃腸炎区別流行状況 (令和3年第49週)



川崎市における感染性胃腸炎発生状況 (5年間)



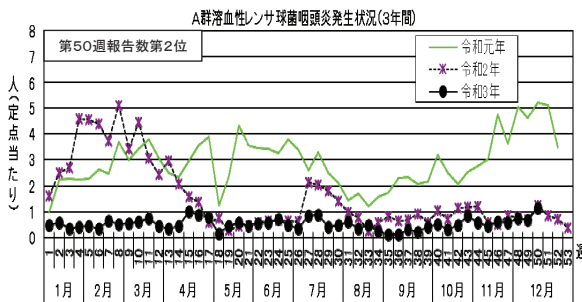
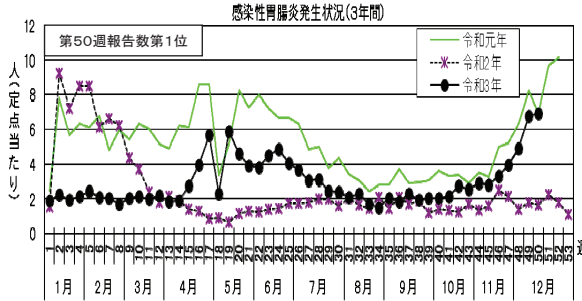
川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所) 問合せ先 044-276-8250 令和3年12月14日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和3年12月13日(月)～令和3年12月19日(日)〔令和3年第50週〕の感染症発生状況

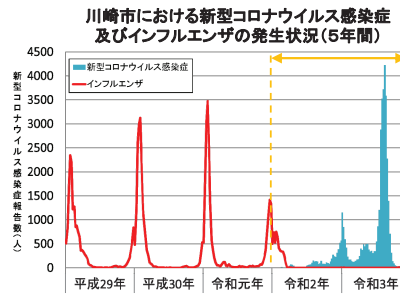
第50週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 手足口病でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.92人と前週(6.76人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は1.14人と前週(0.70人)から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。
 手足口病の定点当たり患者報告数は0.59人と前週(0.78人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



年末年始も感染症の予防対策の徹底を！

インフルエンザは例年冬に流行しますが、令和2年以降は新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、全国的に報告がほとんどみられなくなりました。これは新型コロナウイルス感染症の予防対策として、手洗い・手指消毒、マスクの着用などが徹底されたことが理由の1つと考えられます。同様にインフルエンザ以外の多くの呼吸器感染症も、昨年は報告数が減少していましたが、今年は徐々に増加しているものもみられます。

年末年始の帰省や旅行等に際しては、引き続き予防対策を徹底し、元気に新年を迎えましょう。



帰省や旅行の際の予防対策

手洗い・手指消毒

マスクの着用

可能な限り混雑を避ける

適切な予防対策がなされている飲食店を利用する

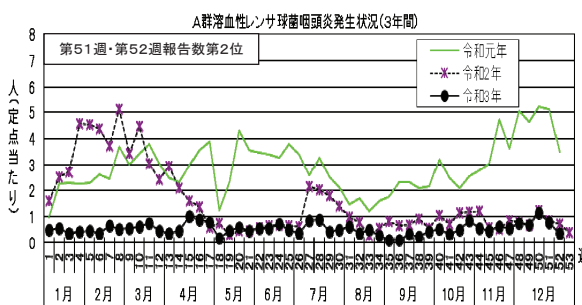
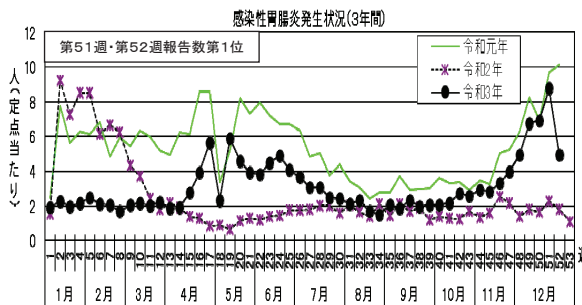
川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所) 令和3年12月21日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和3年12月20日(月)～26日(日)〔令和3年第51週〕及び令和3年12月27日(月)～令和4年1月2日(日)〔令和3年第52週〕感染症発生状況

第51週及び第52週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 手足口病でした。
 第51週の感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は8.78人と前週(6.92人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。
 第51週のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.78人と前週(1.14人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
 第52週は年末年始で多くの医療機関が休診であったため、ほとんどの疾患で報告数が減少しています。



全国の新型コロナウイルス感染症の報告数が急増しています！

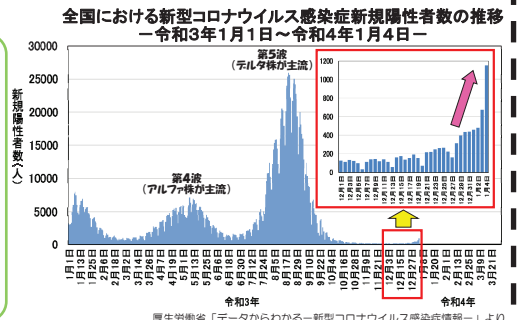
国内における新型コロナウイルス感染症の報告数は、第5波以降減少していましたが、年末から大都市を中心に再び増加に転じています。

現在、欧米を中心に海外で流行しているオミクロン株は、国内でも急速に検出数が増えており、神奈川県内でも報告が相次いでいます。オミクロン株はデルタ株と比べて感染力が非常に高いといわれており、全国各地でオミクロン株による市中感染やクラスターの報告もみられています。しかし、海外のいくつかのデータによると、軽症例が多く重症化しにくいともいわれています。

体調が悪い場合は、軽い症状であっても必ずマスクを着用し、人との接触は控えましょう。

オミクロン株の特徴 - デルタ株との比較 -

- 感染力: 非常に高い
- 重症度: 重症化しにくい可能性あり
- 潜伏期間: やや短い
- ワクチンの効果: ワクチン2回接種による発症予防効果は低い ※追加接種により発症予防効果が高まる可能性あり
- 予防対策: 正しいマスクの着用、手洗いなど



川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所) 令和4年1月5日作成